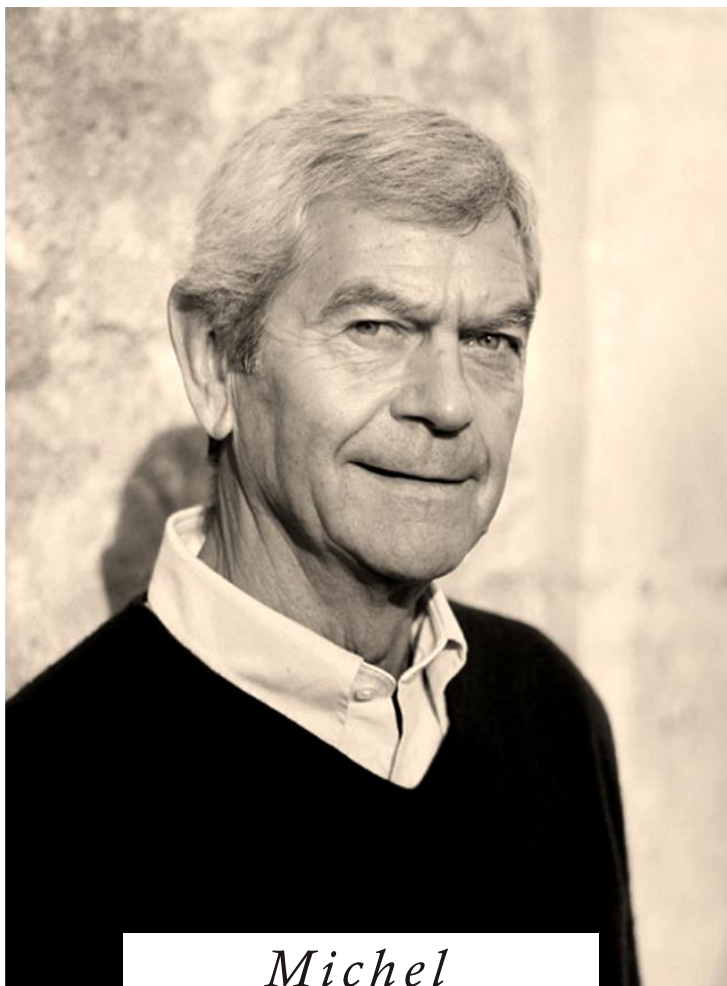


新たに誕生した最高峰ドメーヌ  
「ル・ドメーヌ・ダンリ」

# Le Domaine d'Henri





*Michel*  
**LAROCHE**

## ～ 「ル・ドメーヌ・ダンリ」とは、ワインの“オートクチュール” ～

### ミッシェル氏 50 年目の集大成とラロッシュ家の永遠への始まり

僅か 6ha の小規模零細ドメーヌから、世界的に著名な 100ha 超の銘畑を所有するクオリティネゴシアンに発展させた、シャブリを代表するワイナリーを築いたミッシェル・ラロッシュ氏。  
その名がワイン史に燦然と輝くのは、大規模ワイナリーながら、最高峰の品質を誇るワインを生み続けてきたことにある。氏は、シャブリのグラン・クリュ協会の会長も務め、1998 年には、ワインスペクター誌で「ホワイトワイン・オブ・ザ・イヤー」に輝くなどシャブリ最高峰の名誉を欲しいままにしてきた、まさに“シャブリの帝王”と呼ばれる大人物である。

16 歳からワイン造りを行ってきたミッシェル氏が、50 年目にして、人生の集大成として選んだのが、「テロワール・シャブリ」の究極を体現する「オートクチュール」とも呼ぶべき小規模ドメーヌ、ル・ドメーヌ・ダンリである。生みだされるワインは、“クチュリエ”ミッシェル氏による「手造りの 1 本」、「洗練を究めるように磨きあげられた、一点の曇りもなき緊張感のある芸術的領域に達したワイン」である。

＜ル・ドメーヌ・ダンリ＞のワインを試す者はみな、AC シャブリはトップクラスの造り手による 1 級シャブリに比肩し、1 級フルジョームのワインは、同じくトップクラスの造り手によるグラン・クリュのレベルにあることを知ることになる。

中でも、“シャブリの至宝”とも言える樹齢 75 年の古木の葡萄のみで造られるフラッグシップワイン「Héritage/エリタージュ」は、もはや AOC を超越し「芸術的領域」に達したワインと言っても過言ではない。それは、ル・モンラッシェ、シュヴァリエ・モンラッシェ、あるいは、レ・ドモワゼルやレ・ペリエール（dessus/ドゥッシュ）等から生み出される一部のワインの如く、単なる味覚の優劣を超え、飲み手の五感・五臓六腑全てに振動を与え「感動」をもたらす、つまりは、音楽や絵画等と同様の「芸術領域」の価値感を備えた「神に祝福されたワイン」なのである。

ミッシェル氏にとっての「人生の集大成」であり、「伝説の最終章」であるル・ドメーヌ・ダンリは、同時に名門ラロッシュ家の 6 代目、7 代目…にも連綿と引き継がれてゆく「永遠への始まり」でもある。



## 1. Chablis 2012 (シャブリ/小売価格 ¥ 3,800)

フルーティな華やかさだけではない  
ワインの隅々まで冴え渡る美しい酸とミネラル。  
よく熟した健全な葡萄から、自然のエネルギー漲る  
トップクラスの1級物に比肩するプレミアムスタンダード。

1988年、1989年、2001年に植樹された区画から、Maligny村北部の畑と特級ヴァルミュールに続く山側の畑。多くが南東向きの斜面。約24時間のデブルバージュ後、ステンレスタンクで全房発酵。補糖はせず、天然酵母による自然発酵を行う。18℃で約45日間の長めの発酵。全体の85%にMLF発酵を行い、シュールリーでACシャブリとしては長めの約9月間の熟成。ミネラルの香りを中心に、完熟したグレープフルーツやゴールドенデリシャスの華やいだ香りと共に、凝縮度の高い力のある果実味、シャブリらしいしっかりとしたピュアなミネラル、鮮度感の高い酸がバランスし、心地良い緊張感を与える。ACシャブリながら堂々とした高潔で品格を備えたワイン。

## 2. Chablis 1er Cru Fourchaume 2012

(シャブリ プルミエ・クリュ フルショーム/小売価格 ¥ 5,500)

2区画の畑の葡萄をブレンド、  
テロワールの素性の良さを想わせる凛とした繊細さと品位を宿す  
トップクラスの造り手の特級物に伍すプレミアム・フルショーム。

1964年に植樹された樹齢50年の区画、1999年に植樹された区画から。フルショームの北部のクリマ「L'Homme Mort」と中部の「Fourchaume」。多くが、南西向きの急斜面に広がる畑。約24時間のデブルバージュ後、全房発酵。補糖はせず、天然酵母による自然発酵を行う。全体の89%をステンレスタンクで、残りの11%はピエス(228ℓ)で発酵、及び熟成を行う。18℃で約45日間の長めの発酵。全体の90%にMLF発酵を行い、シュールリーで約12月間熟成。黄色いリンゴや洋梨の上品な香り、ヨード的なミネラルに加え、仄かなトースト香のニュアンスもあり複雑な印象。緻密な質感に繊細な酸がありソフトな印象だが、樹齢50年の古木の葡萄も使用することから、穏やかながらも密度の高い果実味もしっかりとあり、静かなエネルギーと品位を感じさせる。

## 3. 【割当制】 Chablis 1er Cru Fourchaume Vieilles Vignes 2012

(シャブリ プルミエ・クリュ フルショーム ヴィエイユ・ヴィーニュ/小売価格 ¥ 6,500)

シャブリでは貴重なヴィエイユ・ヴィーニュ。  
1970年に植樹された、樹齢42年の古木の葡萄から、リッチで厚みのある  
果実味、高い酸、ミネラルが高次元でバランスする究極のフルショーム。

北部のクリマ「L'Homme Mort」に、1970年に植樹された樹齢42年の古木の葡萄のみから造られる。南西向きの急斜面に広がる畑。約24時間のデブルバージュ後、全房発酵。補糖はせず、天然酵母による自然発酵を行う。全体の79%をステンレスタンクで、残りの21%はピエス(228ℓ)で発酵、及び熟成を行う。18℃で約45日間の長めの発酵。全体の90%にMLF発酵を行い、シュールリーで約12月間熟成。完熟した果実や蜜の香り。豊かな果実味と膨らみのあるアタックに、古木ゆえの極めて高い凝縮感、骨太な酸とミネラルが高次元でバランスし、長大な余韻へと続く。グラン・クリュのような、リッチで熟した果実味と緊張感が見事に融合したワイン。

## 4. 【割当制】 Chablis 1er Cru Fourchaume “Héritage” Première Trie 2012

(シャブリ プルミエ・クリュ フルショーム “エリタージュ” プルミエール・トリ /小売価格 ¥ 8,500)

“シャブリの伝説”と称されるミッシェル・ラロッシュ氏の  
50年に及ぶワイン造りの集大成にふさわしい1本。  
樹齢75年の超古木から生まれたフラッグシップワイン。  
もはやAOCを超越し「芸術の領域」に達した最高傑作「エリタージュ」

父のアンリが、フルショーム北部のクリマ「L'Homme Mort」にある特別なリュエディ「Ardillier」に1937年に植樹した、「シャブリの至宝」とも言える樹齢75年の超古木の区画。さらに、手摘みによって収穫初日に摘み取った、粒選りの葡萄のみで醸す希少ワイン。南西向きの急斜面の畑。約24時間のデブルバージュ後、全房発酵。補糖はせず、天然酵母による自然発酵を行う。全体の63%をステンレスタンクで、残りの37%はピエス(228ℓ)で発酵、及び熟成を行う。18℃で約45日間の長めの発酵。全体の90%にMLF発酵を行い、シュールリーで約12月間熟成、ボトリング後さらに2カ月瓶熟させる。ラ・フランス、アプリコットのような石果類の果実、ミネラル、木樽の仄かなロースト香が調和し、精妙な複雑さを漂わせる。よく熟した可憐な果実に、精密且つ引き締まった酸、緊密なミネラルがバランスし、静謐な優美さを湛える。味わいの中盤から、シャブリの起源を想起させる磯のような海のミネラルが、伸びやかな酸と樹齢75年の古木がもたらす果実の凝縮したエネルギー感に伴って盛り上がり、圧倒的なスケール感に包み込まれる。傑出した長い余韻。まさに、シャブリの傑作。

# Vineyard ～究極のシャブリのテロワールを体現～

父、アンリが植樹し、遺してくれた古木と

シャブリの偉大なテロワールを守るために…

シャルドネが成熟できる北限の地で

ビオロジック栽培、マサル・セレクションの取り組み



Fourchaume for “Héritage”  
planted in 1937



Massal Selection from the oldest vineyard in Fourchaume  
planted in 1937



Fourchaume planted in 1964

## 2012年、8haの畑から始まった小さなドメヌ

父のアンリが1937年に植樹した超古木、そして父と一緒に若きミッシェル氏自身が60年代、70年代に植樹した区画を中心に、2012年、「ル・ドメヌ・ダンリ」が創業。名門ラロッシュ家は新たな歴史を歩み始めた。

ドメヌ・ラロッシュを100ha超の大規模ドメヌに築いた、立志伝中の人物として知られるミッシェル・ラロッシュ氏にとっては小さな、8haのみから成るドメヌだが、現在、ドメヌ・ラロッシュに貸出し中の6haの畑が2019年にはラロッシュ家に戻され、計14haとなる。

尚、貸出し中の畑には、特級レ・ブリューズに隣接するシャブリ1級の最上クリマと言われる「Vaulorent (ヴォーロラン)」や「Vaupulent (ヴォーピュラン)」があり、その将来に大きく期待できる。

## ヴィエイユ・ヴィーニュ(古木)

一般的に、過酷な冬のストレスや収量過多等で寿命が短く、古木が少ないと言われているシャブリにあって、ドメヌ・ダンリの畑は、僅か8haながら、その多くが樹齢75年の超古木を筆頭とするヴィエイユ・ヴィーニュである。

これら「シャブリに遺された至宝」とも言える畑で、古木の命を守り、さらに樹齢を伸ばしてゆきたいと言うミッシェル氏の考えは、「祖父や父が行ってきたように、葡萄の樹のために成し得る最善のことをしたい」ということ。そして、「良いワインを生み出せるのは良い葡萄だけである」という、時代を超えて変わらない普遍の教えを実践することである。

## ビオロジック栽培

ミッシェル氏の栽培は、病害の多いシャブリ地区では稀な「ビオロジック栽培」。常に完熟し、健康的な葡萄を得て、この北限の地では非常に稀な「補糖なし」というビュアな醸造を行い続けている。

一方、氏は「ビオ」という「名目・ラベル表示」にこだわっているのではない。こわるのは、「最も健康的に完熟した葡萄を得ること」。そして、「最も自然に優しいこと」である。

例えば、2013年は100%ビオロジックで耕作を始めたが、5月、6月に平均降水量の2倍もの雨が降ったことから、葡萄を病害から守るため、ビオで認められている大量のボルドー液やサルファーを散布するのではなく、一度だけ少量の防カビ剤を散布した。(その後、乾燥した天候に恵まれたため、再びビオロジック栽培に戻した。)

たった一度でも、防カビ剤を散布したことで、ワインはビオと名乗ることはできないが、大切なのはビオワインか否かではなく、最終的に「健康的な葡萄を得ること」、「最も自然に優しいこと」であり、そして「何世代にも亘り土壌が健全な状態で畑を残し、シャブリの偉大なテロワールを遺してゆくこと」であるという信念を貫く。

## マサル・セレクション

2012年から、父のアンリが1937年に植樹した超古木の区画で優秀な株を選び子孫を残してゆくマサル・セレクションを始めた。クローン苗が存在しなかった時代に植樹された樹齢75年の畑には、多様な個性を持つ葡萄木が混在しており、テロワールと共に守るべき生物学的、遺伝子的葡萄樹の多様性を残すことができる。又、そのワインには、豊かなアロマの幅、味わいの複雑性がもたらされる。

# Fourchaume ～フルショームへのこだわり～

時に、並みいるグラン・クリュ以上に

優れたワインが生まれると言われる＜1級畑フルショーム＞

シャブリを知り尽くしたミッシェル・ラロッシュ氏の

フルショームのテロワールへの強いこだわりによって、

ついに、“フルシヨームの真の実力を知る”

### 3つのキューヴェへのこだわり

2012年にル・ドメーヌ・ダンリを創業する際、グラン・クリュの畑を買うのではなく、3つのフルジョームのキュヴェを造ることに強くこだわったミッシェル・ラロッシュ氏。

ファミリーの歴史や想いと共に、ラロッシュ家に継承されてきた先祖伝来の畑へのこだわりでもあるが、50年にも亘り、シャブリの可能性を探求し、テロワールを知り尽くしたミッシェル氏だからこそ、敢えて選んだ選択でもあった。

最も秀逸な 1 級畑

40 ある1級畑の中でも、歴史的にも最も秀逸と言われるのがフルショーム、モンテ・ド・トネル、モン・ド・ミリュール。いずれも、グラン・クリュの畑が連なる右岸の1級畑である。

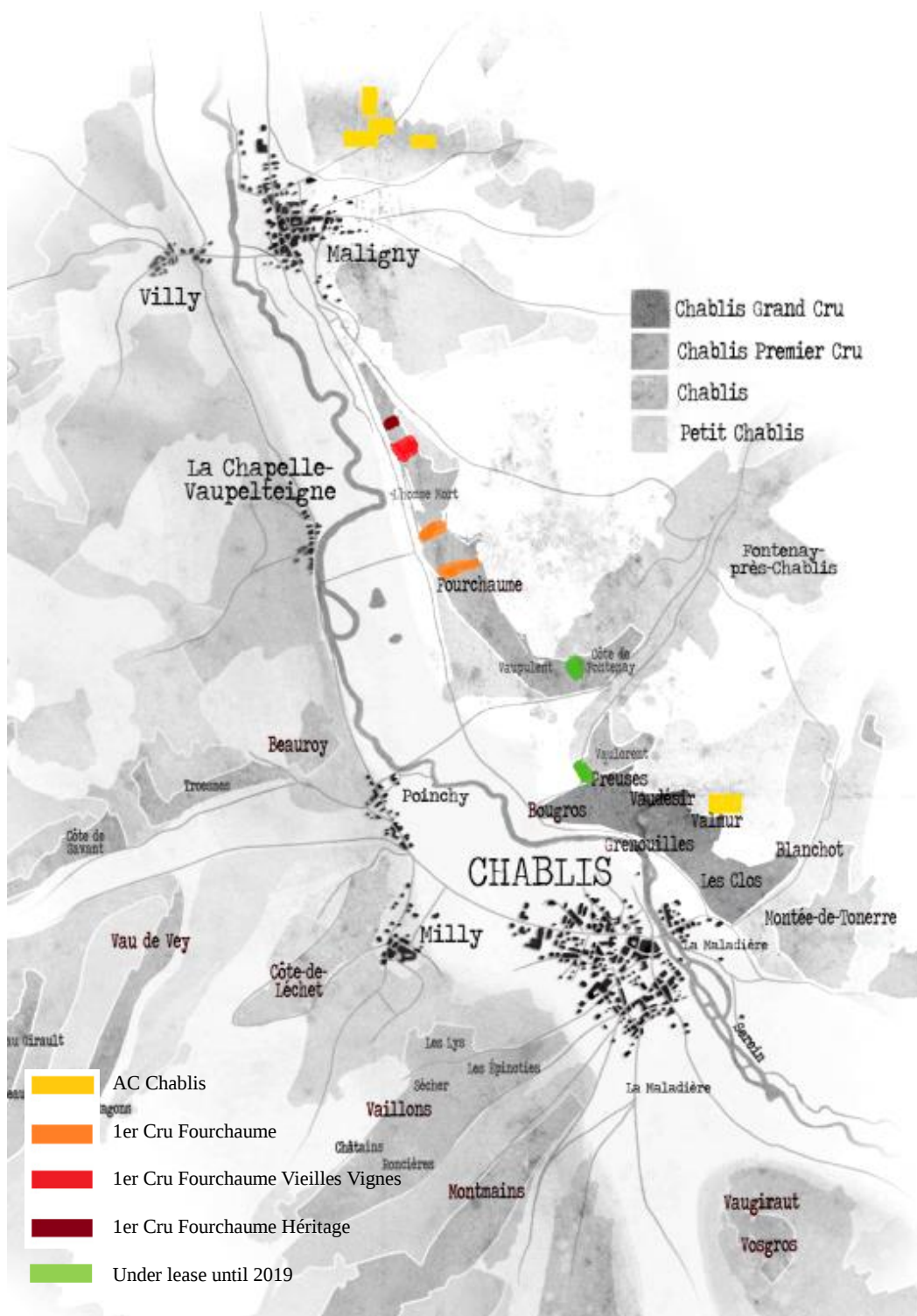
中でも、スラン川に近い南西向き斜面の中腹～中腹下部にあるフルショームは、時に、並みいる特級畑よりも優れたワインができてとしてトップクラスの評価を得る。

ラッシュュ家が所有するフルショームの  
畑もスラン川に近いベストパート、且つ、  
樹齢 75 年の畑を筆頭に、シャブリでは稀少  
な古木ばかりであり、並みいる特級畑を優に  
超える最上のテロワールの条件を備える。

芸術の領域へ、新たなシャブリの傑作  
「Héritage」 ～エリタージュ～

エノロジストとして 50 年のキャリアを持つ  
ミッシェル氏がテロワールのポテンシャルを  
見極め、自らの手によって、フルジョーム本  
来の真の実力を発揮させたいという想いで  
生まれたのが、新たなシャブリの最高傑作、  
「Héritage/エリタージュ」。

もはや AOC を超越し「芸術の領域」にまで達した1本である。



# Le Domaine d'Henri

～ル・ドメーヌ・ダンリ～

その高い芸術性、  
そして究極性

## ～芸術的価値を持つワイン、伝統と歴史、そして未来～

偉大なブルゴーニュワインは、単なる味覚の優劣を超えた「何か」が、人に感動を呼び起こしてやまない。人の五感・五臓六腑、全てに振動を与え、「感動」をもたらす領域、つまり音楽や絵画等と同様の芸術領域にあるワインは、世界中を探してもそう多くはないが、偉大なブルゴーニュとはまさに芸術の領域に存在するのである。

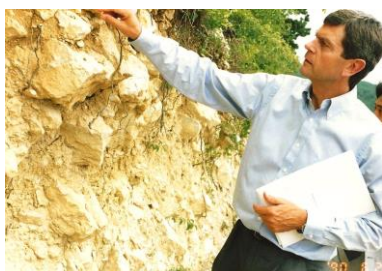
例えば、1杯の「ヴォギュエのミュジニー」を前にした時、私たちは「深遠」という言葉しか表現する術を持たない。偉大なブルゴーニュワインを口にし、言語に絶するその瞬間、心を揺り動かすのはテロワールから伝わる大地の鼓動であり、人の情熱である。そのようなワインは、醸造家が技をもって成し遂げる作品の領域を超え、その味わいは味覚や構造といった分析を超えた一種の官能的「美」である点において、明らかに他地域のワインと一線を画す。

さらに、偉大なブルゴーニュとは、芸術作品にすら留まらない。ブルゴーニュの世界遺産への登録が待望されるが、ブルゴーニュで偉大なワインを造らんとしてきた人々の努力とは、何世紀にも亘って自然と人間の文化が融合し、共存し、発展してきた文化人類学上最高の遺産でもある。

一方、普遍性すら獲得したブルゴーニュの偉大性・芸術性も「人の力」によって連綿と受け継がれてきた「断片の積み上げ」でしかない。かつて隆盛を誇りながら今日では人々に忘れさられた産地が数多くあるように、人の想いの継承とその連続によって作られる歴史や文化とは、ある意味で脆弱なものであり、たゆまぬ人々の精神的な努力が要求される。

どんな名画も、画家が自らの心の中に「高次元の美」をイメージしなければ、キャンバスにその美が描写されることはない。同様に偉大なブルゴーニュの継承とは、単なるワイン造りだけではなく、芸術的価値の継承も意味する以上、醸造・栽培の技術継承のみでは不足であり、「心の中にある美」の継承とその「美」を定義づける「ワイン造りの哲学」の継承が必須となる。

千年もの歴史を連綿と重ねてきたブルゴーニュにおいては、常に挑戦・革新・円熟、そして世代交代というサイクルが営まれている。「良い観衆が良い音楽を創る」という名言のごとく、我々はブルゴーニュに関わるプロとして、現在、すでに名曲を奏でる芸術家の音色はもちろん、まだ世界が発見していない優れた若手が静かに奏でる芸術的音色にも、注意深く耳を傾ける義務を意識せねばなるまい。





## ～4代目アンリ、5代目ミッシェル～

シャブリの革命児として50年に亘り時代を築き牽引してきた  
ミッシェル・ラロッシュ氏の人生の集大成  
そして、次の世代に繋がる永遠への序章

### 「ル・ドメヌ・ダンリ」

#### シャブリに生きるラロッシュ家の系譜

シャブリに生きるラロッシュ家の歴史は古い。1695年にはすでに葡萄栽培を行い、ワイン造りを始めたのは1850年から。ミッシェル・ラロッシュ氏の高祖父、ジャン・ヴィクトールが、北部の Maligny(マリニー)村に畑を購入した。しかし、父のアンリが相続した時でさえ僅か2haを所有するのみで、まだエステートと呼べるような大きさではなかった。

1946年生まれ、5代目となるミッシェル氏が、16歳から父の仕事を手伝い、畑を譲り受けたのが1967年。当時も、6haばかりの小さなドメヌだった。

9世紀からヨンヌ川等の水路を通じ、パリやフランス北部の都市まで運ばれ「石清水のように白いワイン」と人気を博したシャブリだが、1856年にマルセイユからパリへの鉄道が開通されると、安価なワインが大量にパリの市場へと流れ、厳しい競争環境に陥り、続くフィロキセラ禍、第二次世界大戦時のドイツ軍による爆撃等の惨禍により、1950年代半ばの葡萄畑の面積は約500haまで縮小。さらに、毎年のように霜害に見舞われ、生産量も激減した。

ミッシェル氏がドメヌを継承した当時、シャブリは19世紀後半から続く衰退の中にあり、多くのヴィニキュロンは穀物の栽培や畜産業との兼業農家によって生計を立てていたという。

その後、農業機械やセラー内技術力の発展に伴い生産性も向上し、シャブリは再興、黄金時代を迎える。

ドメヌ・ラロッシュも1998年には、『ワインスペクター』誌で＜ホワイワイン・オブ・ザ・イヤー＞に輝くなど品質が高く評価され、ミッシェル氏は僅か6haから、100ha超所有するシャブリ最大規模のドメヌを築きあげた。



#### 生きるレジェンド、ミッシェル・ラロッシュ その情熱が尽きぬ限り、続く挑戦

ワイン産業発展の中で、どの時代にも、影響力のある「レジェンド」と呼ばれる人物はいた。

一方、時代の変遷と共に、ワインに求める価値感やスタイルが変わりゆく中、人々の追憶の中で「レジェンド」として輝く名前が多いが、ミッシェル・ラロッシュ氏は今もなお、「生きるレジェンド」として脚光を浴び続けている。

ステンレスタンクの導入、グラン・クリュにスクリーキャップの採用、ノンフィルターへのこだわりを始め、誰よりも早く新しいことに挑戦。時代を先導し、偉大なテロワールを抱くシャブリのあるべきスタイルを模索し提唱してきた。

「革命児」とも言われたミッシェル氏の情熱が絶えぬ限り、再び私たちを驚かせてくれるような革新や挑戦、新たなシャブリの世界を見せてくれると信じ期待してきた通り、2012年、シャブリの最高傑作の1つと言っても過言ではない至高のワイン「ル・ドメヌ・ダンリ」が誕生。2014年いよいよリリースされる。

#### 新たな時代を歩むラロッシュ家

今度は1人ではない、子供達と共にある挑戦。名門、ラロッシュ家の新たな歴史の始まり。

ラロッシュ家に遺された樹齢40年以上のヴィエイユ・ヴィーニュが多い畑から生まれるワインは、かつて「石清水」とも言われたシャブリのシャルドネの純粋性、他のどのワインとも異なるシャブリであるべき確かな個性を表現したミネラルティ、緻密さ、複雑性を兼ね備える。

まさにそれは、50年に及ぶミッシェル・ラロッシュ氏のワイン造りの集大成であり、シャブリに捧げるオマージュ。そして、次の時代を継承してゆく子供達に伝えたい「想い」と「愛の証」が形になった一瓶である。

“レジェンド・オブ・シャブリ”

ミッシェル・ラロッシュ氏の50年に及ぶワイン造りの集大成と

名門ラロッシュ家の永遠への始まり



VIN PASSION & C<sup>IE</sup>

VIN FINS DEPUIS 2004

【輸入元】 株式会社ヴァンパッション

東京本社：東京都港区芝公園 3-1-1 美濃富ビル6階 TEL: 03-6402-5505

大阪支店：大阪府大阪市北区西天満 2-9-4 クリムト BLD 6 階 TEL: 06-6131-1380

福岡支店：福岡県福岡市中央区西中洲 12-33 福岡大同生命ビル 8 階 TEL: 092-739-6210